

平成 22 年度 第 3 回医学教育 FD/ICT 活用研究委員会 議事概要

I. 日 時： 平成 22 年 11 月 18 日（木）14：00 から 16：00 まで

II. 場 所： 私立大学情報教育協会 事務局 会議室

III. 出席者： 内山隆久（委員長）、福島 統（慈恵医大）、鈴木雅隆（昭和大）、中木敏夫（記録：帝京大）、渡辺 淳（関西医大）
事務局 井端事務局長、森下主幹、平田職員

IV. 議事概要

学士力実現のための授業実践事例の紹介

1. 提出された原稿について

- 資料①-1 をもとに、「医学学習への動機付けを目指した情報学学習プログラム」が紹介された。疑問を作るトレーニングを 1 年次に身につけさせることは重要である、ビデオクリップなどの動画を見て評価する能力を身につけさせることは課題発見に非常に有用であり、特に振り返りビデオクリップは重要であり ICT の利用価値がある、などが優れた点として指摘された。一方、低学年の学生が自ら目標を設定できるのか、6 年間を通した全体像を学生に提示する必要があるのではないのか、情報リソースは web であるが情報源がほとんど英文であり一部の学生は利用できないのではないのか、情報源の信頼性をどのように担保するのか、興味を持った学生は伸びるがそうでないと問題を残すことはないのか、従来の日本型から米国型に変えることが円滑に進められるのか、解がない問題はどうか、倫理側面が軽視される恐れがあるのではないのか、などが問題として指摘された。
- 上記の倫理側面に関して、多業種の参加が必要であり、多職種連携トレーニングにおける ICT の役割が考えられことが議論された。昭和大学では実際に異業種連携教育が実施されているので、これを実施例として紹介していただくこととなった。
- 資料①-2、3 をもとに、「学士力の実現を目指す ICT 活用」が紹介された。本実施例はあらかじめ協会から提示された内容ではなく、評価に関する ICT 活用であるが、これも実施例として採用されるかどうかの質問があった。この間に対して事務局より 2 次例として採用することが可能であるとの回答があった。
- それまでの議論を総括して実施例の候補を整理した。

1) 回答のない倫理的課題の取り扱い

救急蘇生を通じて学ぶ課題発見と振り返り技能トレーニング
医師の判断力を養うための一方法として捉える。

2) 異業種連携教育

議論は途中で時間切れのため打ち切られた。

2. 参考資料について説明があった。

3. 今後の検討スケジュール、および課題について

本日の会議をもとに、報告書に乗せるための実践例の最終案を、救急蘇生を通じて学ぶ課題発見と振り返り技能トレーニング、医療系高学年が参加するEケースによる多職種連携教育を作成することとなった。また、本日欠席委員の自大学での実践例も文書にてご提出いただくように要請することになった。

4. 次回委員会

開催日時は、1月15日（土）14：00から16：00である。